

私見・これからはメーカーに頼らない勉強会を

～奇禍を転じて Web を使いこなす～

新都心レディースクリニック 甲斐 敏弘

各製薬メーカーにはよく『〇〇研究会』というのがあります。運営、会場費、懇親会費は殆どメーカー持ちで、医師の参加費用は通常の学会の10分の1くらい。代表世話人はその地域のボス的存在の先生。メーカーとしては正規の活動で効果的な宣伝活動と考えられます。参加者や世話人の先生達もメーカーが連れてくる講師の先生方と顔なじみになり、演題発表も若手にとっては学会デビュー戦だったりもします。そのメーカーの薬品に対してお手盛り感のある発表もあつたりもするのですが、会終了後の懇親会の場ではじめて本音の（その製品の問題点も含めた）情報交換ができることがあります。まあ、それぞれにメリットがあるとも言えるでしょう。

ただ、『〇〇研究会』の行く末は当然メーカーの姿勢に依存します。競合他社からより良い製品が発売されるなど、薬品の販促活動をする意味がなくなればあっさりこの研究会は消滅します。私も実体験として、経営方針転換のために突然終了を予告することになった最後の会に出くわしたことがあります。

（代表世話人は最後の挨拶で悔しさを隠すことはありませんでした）

そんなこともあって私が設立から関わってきた埼玉乳がん臨床研究グループ (SBCCSG) は、もとは某社主導の研究会だったのを敢えて某社から距離を置き NPO 法人になることを選択しました。乳癌の世界を席卷したこの会社の製品は、ジェネリック発売によって急速にシュリンクし優秀な MR も他社へ流れ、殆どこの領域から手を引いた感があります。あのまま某社に抱っこされている状態であれば SBCCSG も立ち消えになったかも知れません。『〇〇研究会』式の学術活動は殆ど主催メーカーの持ち物で、我々はその掌中で踊らされてもいる訳です。

我々医師の側の問題としては、「おんぶに抱っこ状態」に慣らされ過ぎています。開催の告知案内、世話人会の段取り、情報交換会の設定などなど、実際我々は彼らに言われるがまま動けば良い。この状態に慣らされすぎて、自分自身から問題点を探し解決の方法を考える若手が少ないような気がします。

今から 10 年くらい前の話。ボス的存在のある先生が烈火のごとく怒り火を吹いたことがあります。「お前の会社の講演会には今後一切顔を出さない」と言うのです。何に対して怒ったかと言うと、その製薬メーカーが講演スライドの「事前チェック」を行うと言ってきたからです。「俺たちはプロの集団だ！製薬メーカーの指図で修正してもらったスライドを使ってプロの集団に対してしゃべることなどできるか！」ってことです。ボスのこの発言は大きな反響を

呼びましたが、現状は皆様ご存知の通りです。ある別の講演会終了後にその講師に平謝りされたこともあり、「作ったスライドの殆どをボツにされた！結局本当に話したい内容ではなくて、メーカーの作ったスライドで提灯持ちのような話になってしまって、参加された先生方には本当に申し訳なかった」と。

発端は米国の裁判で、あるメーカーが敗訴したことによります。講演会で **challenging** な適応外使用についての話を聞いて実際にやってみた（おぼかな？）医師がいて問題になってしまい、この医師はメーカーを相手に裁判に訴え、メーカーが敗訴したと理解しています。これによって、特に適応外使用の可能性に触れたスライドはメーカーによって削除を指示されます。純粋に学問的には、一番興味をそそられるようなところなのです。

メーカーに頼ってなければ、もっと実地医療に即した話になるはずです。いわば公式見解である **phase III** 論文の内容を論じてみても、実地臨床上は適格症例ばかりが揃うわけではありません。臨床研究の結果をそのまま実臨床に当てはめていいかどうかは本来別の研究課題です。実臨床に近いところでは、そんな情報こそが重要です。メーカーがさらっと流すだけの副作用情報こそが実臨床は大問題となることもあります。そんな本音の研究会があっても良いと思います。

ウィズコロナ時代になって我々は本格的に Web 会議をすることになりました。移動の手間がなくなるだけでなく、当日参加できなくても後から記録画像を見ることがもできます。メーカーに頼らない企画で情報を共有することが簡単にできるようになりました。メーリングリストも ZOOM pro も格安。Dropbox や Scapbox も無料で、カード決済すれば直後から使い始めることができる時代です。遠隔地の講師を交えての会議さえも開くことができます。スライド事前チェックのない本音の研究会です。講演料は交渉次第でしょうが、旅費、宿泊費、会場費は不要。会議のあとはそのまま Web で宴会になっても良い。却ってその方が自由な発想がでてくる可能性がある。あとはやる気と企画力、意気込みに答えてくれる仲間が数人いればなんとかなるのではないのでしょうか。

さまざまな社会活動は、恐らく今後もコロナ前の状態に戻ることはないでしょう。何とか奇禍を転じ少しでも楽しい時間を過ごしたいものです。